ショウちゃんとめぐる

ぶらり昭和区MAP
～松栄・御器所～

名古屋市昭和区役所

松栄・御器所エリアって？
～そのあらまし～

「松栄」「御器所」は、昭和区の真ん中に位置し、御器所台地を形成しています。周辺より標高が高いため、水の便が悪く、古くから畑や放牧地が広がっていました。

畑では、大根が多くつくられ、「つけもの」として製造されていました。「御器所大根」という通称が残り、昭和区のマスコット「ショウちゃん」はここから生まれました。現在は、御器所駅で鶴舞線・桜通線が交差し、交通の要所となっています。区画整理が進み、住宅地として活性化しています。

このような都市化の中で、塩付街道・郡道なども残っており、古くから人々の往来が盛んだったことを物語っています。地名の由来は、諸説ありますが、「松栄」は、善昌寺内に勢いのある松の大木があったことから、「御器所」は熱田神宮の祭礼で使う土器を作っていたことから名前がついたようです。

『尾張名所図会』より

こんにちは！
ぼくは昭和区のマスコット
ショウちゃんといいます。
昭和区には古いもの、新しいもの、
いろんな発見がいっぱい。
このマップで、ぼくと一緒に
「松栄」、「御器所」の魅力を
探してみよう！

まちあるきコラム 塩付街道と石仏村

A 塩付街道

塩付街道は、昭和区のほぼ中央を南北に通る道で、南は星崎付近から北は瀬戸街道につながっています。塩付という名は、星崎付近の塩田で取れた塩を、足助を経て信州方面に運ばれたことに由来します。

塩は馬によって運ばれましたので、馬の安全を祈って所々に馬頭観音や地蔵菩薩が安置されており、特に白山社北側は当時の面影が強く残っています。また、この道は現在の塩付通の西側を通る狭い道で、その静けさは古くからある道だと感じられます。

B 古い蔵のある家並み

白山社の東側・北側に古い蔵を持った民家が数軒残っています。この辺りは、道幅も狭く、塩付街道の面影が最も色濃く残っている場所でしょう。

その昔、「塩」を信州に運ぶため、人や馬が行き来していた往時を体感できる場所です。

C 石仏村の面影

松栄学区の町割は、碁盤の目状に広がる道路に沿って東西に延びていますが、石仏町だけ南北に長い特異な形です。これは、南北に走る塩付街道に沿って形成された石仏村の集落が、そのまま石仏町となったためです。町の中心にある善昌寺と白山社、道幅3～4mの細い小道、あちこちに残る狭い路地が、村の面影を残しています。また、道が緩くくねっているのは、もともとあった村の路地をそのまま拡張して区画整理をしたためです。

まちあるきコラム まちのあちこちに…みんなを見守るお地蔵さん

D みやみち地蔵

名古屋市立大学病院の北東角に小さなお堂があり、その中にみやみち地蔵が安置されています。地蔵尊には、「右みやみち、左なるみみち」と記されています。「みやみち」とは熱田神宮、「なるみみち」とは鳴海方面を指していたのでしょう。

昔から往来の多い塩付街道で、道標としての役割を果たす辻地蔵です。

E 川澄地蔵

名古屋市立大学病院の東側の塩付街道沿いに西を向いた新築の「地蔵堂」があります。碑文の後ろには、「川澄地蔵大菩薩奉安三百年記念寛文7年(1667)」とあります。

堂内には、お地蔵さんと一緒に「馬頭観音」が安置されています。街道には馬頭観音が多く、馬の安全と商売繁盛を願ったものと思われます。

F 希望幼稚園のお地蔵さん

子どもたちが遊ぶ園庭の東端にお地蔵さんがまつられています。これは昭和24年に古井戸に転落し亡くなった園児の冥福を祈り、このような不慮の事故がなくなることを念願して建立されました。「希望地蔵」と命名され、毎年供養祭が行われています。

希望幼稚園は昭和5年に設立され、"希望"という名は「朝起希望　夕臥感謝」の言葉から引用し、創立者大河内林次郎によって名付けられました。

G 石仏町のお地蔵さん

塩付街道を北に進み、御器所通に近づくと、マンションの片隅にひっそりとお地蔵さんのお堂があります。昔も今も、道行く人々をそっと見守っています。

まちあるきコラム 桜の花に誘われて…いこいの場所、山崎川

H 山崎川の流れと風景

檀渓の辺りの山崎川は昭和30年代頃まで巨岩がたくさん見られ、まさに小仙境の面影を残していました。また楓橋の近くに堰を設け、天然のプールのようにして、子どもたちの格好の遊び場でした。現在は、檀渓橋から室塔橋にかけての左岸に約20本の桜の木が植えられ、隠れた桜の名所にもなっています。桜の時期になると、上流から流れてきた花びらで、川一面がピンクに。カモが水浴びをしたり、カメや大きなコイが泳ぐ姿も見られます。

写真提供:加納克己さん

I 檀渓旧蹟

檀渓は江戸時代に白林寺の住職が庵を結び「檀渓」と称したことに由来します。

尾張名所図会にも「土橋を架(わた)し樋(かけひ)を伏せて、幽邃(ゆうすい)いふばかりなし。文人縮流(しゅう)常に閑情を暢舒(ちょうじょ)する小仙境ともいふべし」と紹介され、檀渓橋のたもとには碑が立っています。樋とは杁中にある隼人池の水を、灌漑用に山崎川の対岸へ引くために設けられたもので、この水によって藤成新田が造られました。

『尾張名所図会』より

まちあるきコラム 心も体もポカポカ！昭和区の銭湯

K 銭湯「御嶽温泉」

創業は昭和の初め頃。外観は当時のままで、表から煙突は見えませんが、"町のお風呂屋さん"の趣が漂っています。内部も、昔ながらの番台や木製ロッカーなど、レトロ感満載です。浴室の奥の壁にはモザイクタイルで高原風景が描かれています。自慢のラドン湯は疲れが取れて体が楽になるとのこと。気泡湯や電気湯もあります。

塩素を多用するのではなく、毎日、水を替えてお湯を沸かしています。そんな手間暇から生み出される、肌触りの柔らかなお湯を求めて、県外から通うファンもいるそうです。

L 銭湯「富美の湯」

昭和28年創業、ヒノキ造りの浴槽でできたお風呂や水風呂、サウナが楽しめる銭湯。お風呂の種類は電気風呂や薬湯、気泡風呂があり、露天風呂も完備しています。女湯の露天風呂からは、富美の湯の立派な煙突を見上げることができます。毎週日曜日の午前中には朝湯に浸かることができ、ゆで卵のサービスまで。

また休憩室は、多くの漫画やマッサージチェア、沢山の種類の飲み物が揃っており、気持ちよくリフレッシュすることができます。

夏には「夏祭り」、年末には「餅つき大会」も開かれます。

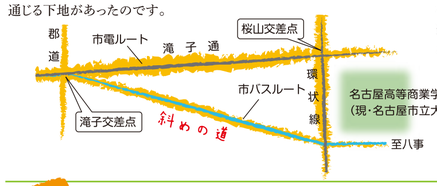
まちあるきコラム J 滝子交差点から斜めに延びる道の謎

滝子交差点付近(昭和48年)

滝子交差点から東南東へ、斜めに瑞穂通の市大病院前交差点に通じている道があります。東西や南北にまっすぐに延びる道が多いなかで、この斜めの道はいつ、どんな目的で造られたのでしょうか。

大正9年(1920)に現在の名古屋市立大学病院の地に名古屋高等商業学校(名古屋大学経済学部の前身)が創設されましたが、この斜めの道は、滝子から学校へのアクセス道路として学校の建設と同時に計画され、開削されたものです。田畑が広がるこの地に初めて造られた、長さ1km、幅15m(8間)もある広い道路でした。

その後、この道は名古屋高等商業学校前で留まらず、大正11(1922)～15年(1926)にはさらに東へ延びて、八事まで結ばれました。歴史をさかのぼると、江戸時代には名古屋城下からこの地区を通って八事山遊びへ出かける人たちが大勢いました。古くから八事へ通じる下地があったのです。



昭和元年頃、桜山から東へまっすぐに藤成通が開通しますが、山崎川とぶつかったところでストップします。これをさらに東へ延ばそうという計画は、当初からありませんでした。

昭和4年1月に尾張電気軌道の路線バスが、滝子からこの斜めの道を通って石川橋を経て八事まで開通します。同年6月、尾張電気軌道が新三河鉄道となってからは、路線バスは熱田まで延長されます。

昭和12年、路線バスが市営化されると、このルートで熱田と八事を結ぶ市営バスが走りました。また、挙母地方(現在の豊田市)から名古屋南部へ至る物流ルートとして利用された時期もありました。現在も市バス金山12系統の一部のバスが、この斜めの道を通っています。

ちなみに、市電が滝子から桜山まで開通したのは昭和3年、桜山から市民病院前まで開通したのは昭和7年のことでした。

滝子電停付近(昭和45年)

写真協力:名古屋市交通局 市営交通資料センター

まちあるきコラム こんなところに…地下鉄「御器所」駅と「桜山」駅の壁画

地下鉄御器所駅と桜山駅の構内には、壁画があります。

御器所駅の壁画は「都市(まち)の楽しさ」。生き生きとした、にぎわいあふれる都市の姿が表現されています。

桜山駅の壁画は「桜山物語」。桜山のシンボルである桜を金屏に配し、かつて走っていた市電や桜山の風景が、セピア色でノスタルジックに描かれています。

昭和区に伝わる昔話

昭和区には、いくつかの昔話や伝説が今も伝えられています。
どこかユーモラスだったり、ちょっと心がほっこりしたり。
そんな、人々の暮らしに根ざした昔話を紹介します。

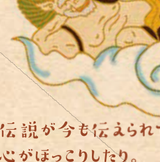
雷とふんどし(御器所村)

昔々、御器所村はだいこん作りが盛んで、「御器所だいこん」といわれ、漬物にして売られていました。

だいこんができると、塩漬けやぬかみそ漬けにします。子供が30人ほども入ることができるぐらいの大きな樽に、だいこんを並べて入れていきます。人もハシゴをかけて樽の中に入り、並べただいこんを上から足で踏んで漬け込みました。

この辺りには、漬物の他にもうひとつ有名なものがありました。さらし屋です。さらし屋は、もめんの布を水で洗ったり、日に当てるなどして白くするのが仕事です。もめんの布は、長い物干し竿にかけ、見上げるくらい高いところへ干します。さらした布が風に吹かれて、パタパタと鳴る音は、村中に響き渡っていました。

雲ひとつない青空なのに、白い布が干されていないと、村人たちは「あれ、変だなあ。こんなにいい天気なのに、なぜだろう？」「ひょっとするともうじき雨が降ってくるかもしれんぞ」と言い合いました。雨が一粒、ポツンと降っただけで、せっかくのさらし屋がダメになってしまうので、気をつけているのを知っているからでした。白い布が見えると、村人は安心して百姓仕事をし、見えない時には「今日は雨になるぞ」と、田んぼや畑仕事の段取りを勘定しました。



いつの頃からか村人たちは、白い布のことを、「あれは雷のふんどしだ」と言うようになりました。ひらひらとたなびく白い布は、ちょうど長いふんどしを乾かしているように見えるからでしょうか。

「雷さまは天気をよく見ておられるなあ」「天気がいいと、雷さまはふんどしを外して乾かして、きっと雲の上で一服しているんだわ」

「ふんどしをつけたら仕事を始めるぞ、光ったり、雨が降ったり、大きな太鼓をたたいてひと暴れなさるんだぞ」

「雨の日は仕事をしないといけないから、ふんどしを干せないんだ」

御器所周辺の人ばかりではなく、すっと離れた村の人でも、雷のふんどしを天気予報がわりにつかっていたそうです。

参考資料
『昭和区の昔話と伝説をたずねて』

石仏観音(石仏村)

石仏村には昔から観音さまの形をした大きな石がありました。地上にはお顔と思われる部分だけがあり、他は地中に深く沈んでいました。

ある時、侍がお城を築く石を探しに村へやってきて、この大きな石を見つけました。「これは良さそうな石だ。掘り出せ！」。侍の命令で人夫たちが掘り出そうとしますが、びくともしません。「なにをぐずぐずしとるか！大きすぎて動かんのなら、石工を呼んできて割らせよ」と侍がどなり、隣村から石工が呼ばれました。石工は大きな石にノミを当て、カナヅチで力一杯たたきました。

そのとたん、石工は両手で目を押さえて叫びました。「目が見えん！真っ暗で何も見えん！」。人夫たちは気味が悪くなり、侍に申しました。「あの石は観音さまです。観音さまを割ろうとしたので、目が潰れたのです」。侍はしょぼしょぼ諦めて、大きな石はそこに置かれたままになりました。

さて、目の見えなくなった石工は家に帰り、罪の恐ろしさに震えていました。その夜のことです。「お経を唱えながら石の地蔵を刻むがよい。そうすれば罪は許されるであろうぞ」とおっしゃいました。石工は翌日からお地蔵さまを刻みはじめました。お経を唱えながら石に向かうと、心にお地蔵さまのお姿がはっきりと浮かびます。手探りでコツンコツンと刻み、ようやく出来上がったお地蔵さまを観音さまのところに運び、一心にお経を唱えました。

お経が終わったとき、石工は思わず声をあげました。目の前が急に明るくなり、自分が刻んだお地蔵さまのお姿が見えろではありませんか。大きな石の観音さまもはっきり見えます。目が見えるようになった！」と、石工は躍り上がって喜びました。家の人も涙を流して喜び、「観音さま、ありがとうございました」と頭を下げました。

やがて、石工は観音さまの近くに家を移し、お堂を建てて、毎日お経を唱えて暮らしました。人々はその観音さまを「石仏観音さま」と言って、近くに移り住むようになり、村ができました。その名も石仏村――、観音さまのお姿をした石のある村ということでしょう。

参考資料『感興漫筆』

昭和区の木・ハナミズキ

平成元年8月、市制百周年昭和区記念事業の一つとして、区の木・区の花の募集が行われました。

投票の結果、区を象徴し、区民の皆様に愛され親しまれる木としてハナミズキが昭和区の木に決まりました。

花の見ごろは4月下旬から5月上旬で、白や赤の可憐な花が咲き、秋には紅葉し赤い実をつけます。

松栄・御器所エリアでは、塩付通、桜山中学校東側の道路にハナミズキの並木が続いています。

ショウちゃんとめぐる ぶらり昭和区MAP ～松栄・御器所～

製作：「ぶらり昭和区MAP」製作委員会
桜花学園高等学校インターアクトクラブ
昭和区案内人クラブ
昭和鯱城会
八事・杁中歴史研究会
協賛：名古屋昭和ロータリークラブ

昭和区まち歩きアプリ「SHOW MAP」
ダウンロードはこちらから
http://yagoto-nkc.sakura.ne.jp/showmap/index.html

発行：名古屋市昭和区役所
TEL 052-735-3822　FAX 052-735-3829
2018.3　3,300部
※この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。